

「会員企業の現状に関するアンケート調査」まとめ

令和3年10月12日

令和3年度が半年経過し、会員企業の現状について、上半期の受注状況と今後の見通しについて調査しました。

1. 公共工事の受注状況について

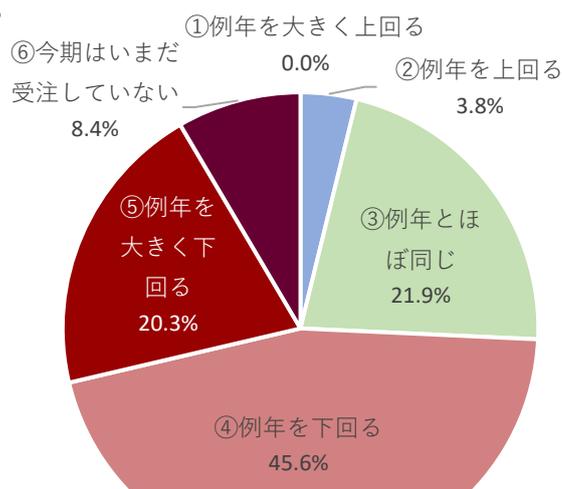
- 公共工事(土木、建築を含む)の上半期の受注量は、群馬県発注工事及び県に加えて国、市町村工事において、7割が例年を下回る受注量と回答。

第1四半期での調査と傾向に変化は、なかった。

未だ公共工事を受注していない企業が20もあった。

- 地域的な偏りがあり、県央から東毛の受注量が少なく、山間部では若干多い傾向となっている。この傾向も第1四半期での調査と同様である。ただし例年と同等かそれ以上との回答が多い支部でも5割程度。

- 公表されている発注見通しから群馬県発注工事及び県に加えて国、市町村工事の受注予測も約8割が例年より減少する回答。



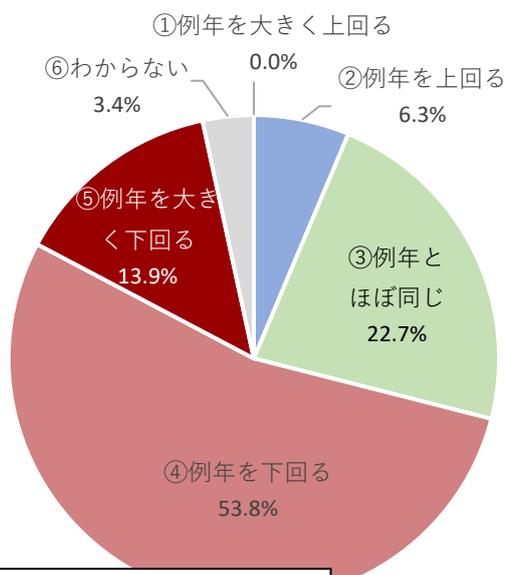
令和3年4～9月の公共工事全体(国,県,市町村発注の土木建築含)の受注量

2. 民間工事の受注について

- 民間工事の上半期の受注量は公共工事ほどではないが、7割弱が例年より減少していると回答。これも第1四半期での調査と同様な傾向となっている。今後の受注見通しについても約6割が減少、約2割が不明と回答し、先行きの不透明感が強く表れている。

- 令和3年度の会社の売上高の予想は、例年よりも減少すると回答した企業が約7割となっている。この傾向も第1四半期の調査と同様な結果。

- 令和3年度の会員企業の現状としては、公共工事、民間工事ともに受注量が減少している企業が多数となっている。特に公共工事については、まったく受注していない企業が20社もあるなど、厳しい状況となっている。これらの原因として、災害復旧事業の完了とともに、令和2年度の3次補正予算や令和3年度予算の執行に起因していることも考えられ、今後の予算の増額や地域のバランスを考慮した執行の平準化が望まれる。



令和3年度の会社の売上高予想